

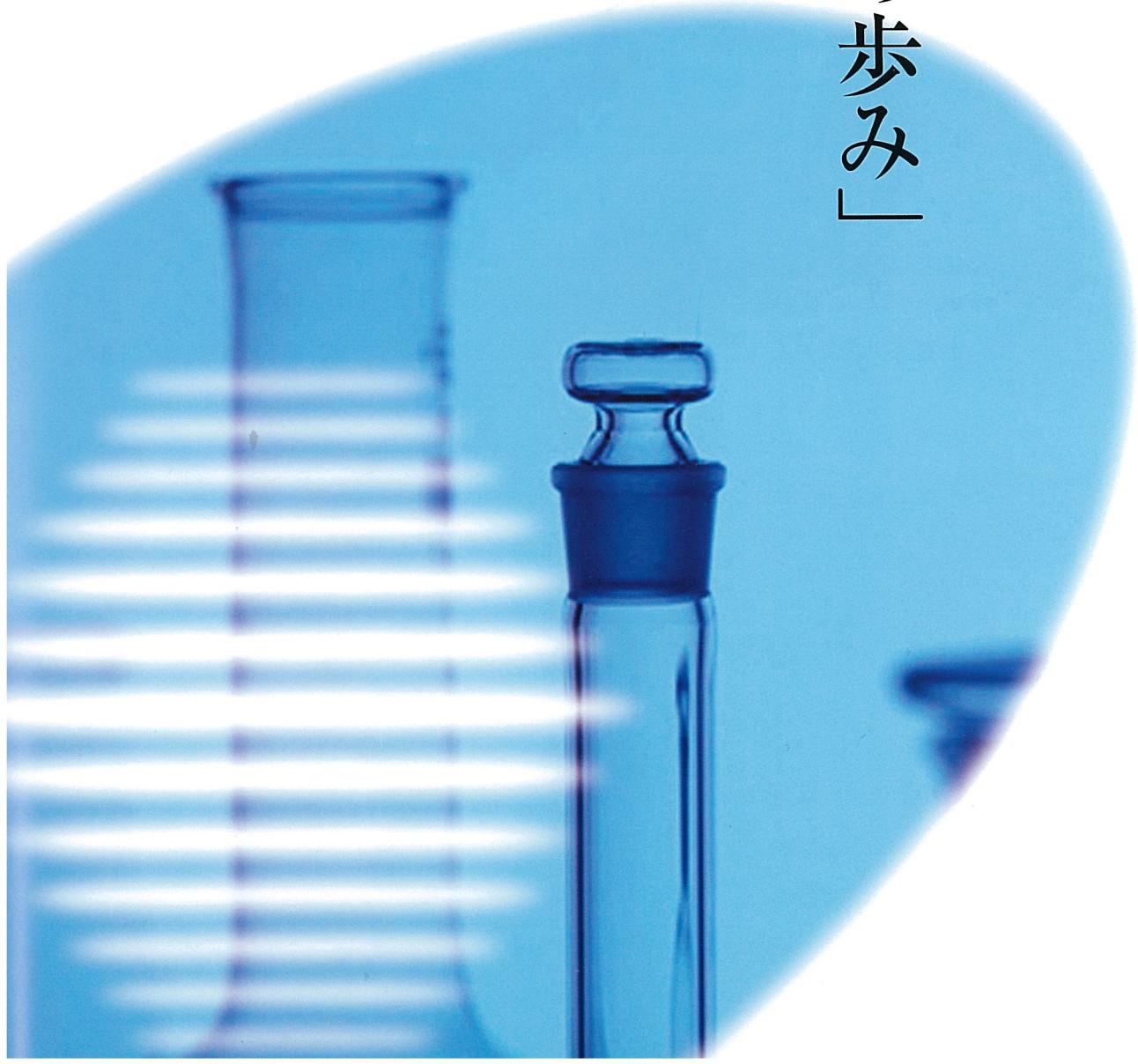
KAKETSUKEN

化血研
60周年記念誌

th.Anniversary

「化血研60年の歩み」

所長挨拶	02
歴代所長プロフィール	04
組織図・役員	06
寄附行為	07
売上高・職員数推移	08
施設案内	10
年表	13





ご挨拶

財団法人 化学及血清療法研究所

理事長・所長 船津 昭信

F u n a t s u A k i n o b u

「化血研」の名で知られております、私ども(財)化学及血清療法研究所は、昭和20年(1945年)12月、当時の熊本医科大学教授(のちの学長)だった太田原豊一博士の首唱により、同医科大、特に微生物学教室を中心とした有志が集まり創設されました。

化血研の前身は大正15年(1926年)、熊本医科大学長だった山崎正董博士を理事長に大学内に設立された(財)実験医学研究所でございます。この研究所は、微生物学・免疫学・血清学の研究成果としてワクチン、抗血清、診断抗原等を製造し、伝染病の予防、治療、診断に貢献、高い評価を受けておりました。しかしながら、昭和20年7月1日の熊本大空襲で壊滅、残念ながらその機能を焼失いたしました。

そして8月の終戦。戦争による心身の疲弊と衛生状態の悪化は全国的にその極みに達し、天然痘、赤痢、コレラなどいわゆる感染症の蔓延が最も憂慮される状況でありました。戦争の災禍によって中断された研究所は、このような事態の中で、「化血研」として蘇ったのでした。

以来、化血研はこれまでに人体用ワクチン、動物用ワクチン、血漿分画製剤という生物学的製剤分野に特化してきました。

世界に負けない品質、技術的な蓄積で何とか勝ち抜く体制づくりに努力してきました。まだまだ道は遠いですが、この分野にチャレンジをして、世界に通用する組織体にしていくことが必要と考えております。

おかげさまで、化血研は創立60周年を迎えることができました。

今後もこの分野に軸足をきっちりおき、それぞれの製剤を改善・改良しながら、バイオ医薬分野を次の柱とすべく邁進致します。

そして、「予防医学と保健衛生の向上に寄与し、国民の健康を守る」という財団創立の理念に私どもは今一度立ち返り、足許をしっかりと固めつつ先端技術への挑戦をし続ける所存でございます。

今後ともさらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

初代所長

太田原 豊一
(昭和20年12月～昭和23年3月)



熊本医学界の重鎮。その豊かな学識と俊才をもって、財団法人化血研の生みの親となり、戦後の混乱のなか、新しい予防と治療のあり方を身をもって示した。雄途むなしく他界したが、その遺志を継いだ門下生達が、新生化血研の今日を築き上げた。

- 1889年(明治22年) 岡山県津山市東新町生まれ
- 1914年(大正3年) 私立熊本医学専門学校卒業
- 1922年(大正11年) 医学博士の学位を授与さる
- 1924年(大正13年) 医学研究のため欧米各国へ出張
- 1929年(昭和4年) 熊本医科大学教授に就任、後に学長となる
- 1945年(昭和20年) 財団法人化学及血清療法研究所創設、理事長・所長に就任

第2代所長

山崎 正董
(昭和23年4月～昭和23年12月)

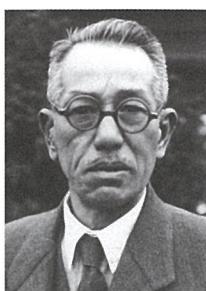


熊本医科大学の官立移管を実現、また実研設立の功労者。戦後の化血研存亡の危機にあたり、熊本医学界の強い熱望にも辞しがたく、第2代所長に就任。事業分野の拡大、実研との合同などに指導的な手腕を發揮し、化血研の進む方向を定めた。

- 1872年(明治5年) 高知県高岡郡佐川町生まれ
- 1900年(明治33年) 東京帝国大学医科大学卒業
- 1913年(大正2年) 医学博士の学位を授与さる
- 1932年(昭和7年) 熊本医科大学名誉教授
- 1948年(昭和23年) 財団法人化学及血清療法研究所理事長・所長に就任
- 1962年(昭和37年) 熊本県教育委員会より熊本県近代文化功労者として顕彰さる

第3代所長

小山 信説
(昭和23年12月～昭和31年7月)



温厚実篤な人格と卓越した見識により、1947(昭和22)年に新制熊本県医師会会长に当選。1945(昭和20)年12月、化血研創立に際し当初より理事に就任。1948(昭和23)年から1956年(昭和31)年7月まで第3代所長となり、播磨期の困難な経営にあたって、化血研繁栄の基盤を築いた。

- 1889年(明治22年) 熊本県球磨郡四浦村生まれ
- 1911年(明治44年) 私立熊本医学専門学校卒業
- 1926年(大正15年) 財団法人実験医学研究所理事に就任
- 1932年(昭和7年) 医学博士の学位を授与さる
- 1945年(昭和20年) 財団法人化学及血清療法研究所理事に就任
- 1947年(昭和22年) 新制熊本県医師会会长に当選
- 1948年(昭和23年) 財団法人化学及血清療法研究所理事長・所長に就任

第4代所長

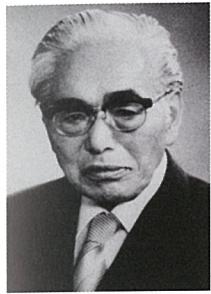
竹屋 男綱
(昭和31年8月～昭和45年8月)



熊本大学体质医学研究所所長としてその育成に尽力。定年退官後、周囲からの懇請により化血研の第4代所長に就任した。全所員の敬慕を集め、研究と生産の基礎を確立、化血研の掲げる予防医学の進歩発展に力を注いだ。

- 1890年(明治23年) 山口県防府市大字鈴尾生まれ
- 1914年(大正3年) 私立熊本医学専門学校卒業
- 1922年(大正11年) 医学博士の学位を授与さる
- 1924年(大正13年) 熊本医科大学教授
- 1952年(昭和27年) 財団法人化学及血清療法研究所理事に就任
- 1956年(昭和31年) 財団法人化学及血清療法研究所理事長・所長に就任
- 1968年(昭和43年) 学校法人銀杏学園理事長に就任

第5代所長

六反田 麻吉
(昭和45年9月～昭和59年3月)

熊本大学学長を辞任後、1970(昭和45)年、化血研第5代所長に就任。海外への視野も広く、新しいバイオテクノロジーの研究を推進。現在の化血研の基盤を確固たるものにした。一方、医療技術者の養成に力を注ぎ、また医療法人の運営にも寄与。この広範囲な活動で、熊本の医学発展に大きく貢献した。

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1907年(明治40年) | 鹿児島県川辺郡野崎町生まれ |
| 1931年(昭和6年) | 熊本医科大学卒業 |
| 1936年(昭和11年) | 医学博士の学位を授与 |
| 1947年(昭和22年) | 熊本医科大学教授 |
| 1969年(昭和44年) | 熊本大学学長に就任 |
| 1970年(昭和45年) | 財団法人化学及血清療法研究所理事長・所長に就任 |
| 1985年(昭和60年) | 第38回熊本県近代文化功労者顕彰 |

第6代所長

野中 實男
(昭和59年3月～平成8年2月)

化血研初の生え抜きの所長として、1984(昭和59)年3月就任。六反田前所長の意志を継ぎ、バイオテクノロジー分野に大きく貢献し、日本の遺伝子組換えワクチンの道を拓いた。また、極めて細やかな経営と外部への対応に力を注いだ。

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1924年(大正15年) | 鹿児島県川辺郡野崎町生まれ |
| 1949年(昭和24年) | 熊本医科大学付属医学専門部卒業 |
| 1958年(昭和33年) | 財団法人化学及血清療法研究所入所 |
| 1959年(昭和34年) | 医学博士の学位を授与される |
| 1968年(昭和43年) | 学校法人銀杏学園理事に就任 |
| 1974年(昭和49年) | 財団法人化学及血清療法研究所理事に就任 |
| 1984年(昭和59年) | 財団法人化学及血清療法研究所理事長・所長に就任 |
| 1991年(平成3年) | 学校法人銀杏学園短期大学学長に就任 |

第7代所長

酒匂 光郎
(平成8年3月～平成12年7月)

インフルエンザワクチンを始めとする人体ワクチン関連業務に長く関わった後、1996(平成8)年3月就任。試薬事業からの撤退や(株)化血研の解散等、既存事業の整理を手掛ける一方、製品の品質保証体制の確立に尽力した。また、将来を見据え、欧米企業との技術提携を行った。

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1931年(昭和6年) | 鹿児島県川辺郡知覧町生まれ |
| 1954年(昭和29年) | 熊本大学理学部卒業 |
| 1957年(昭和32年) | 財団法人化学及血清療法研究所入所 |
| 1986年(昭和61年) | 財団法人化学及血清療法研究所理事に就任 |
| 1990年(平成2年) | 医学博士の学位を授与される |
| 1996年(平成8年) | 財団法人化学及血清療法研究所理事長・所長に就任 |
| 1997年(平成9年) | 学校法人銀杏学園理事長に就任 |
| 1998年(平成10年) | 医療法人杏和会理事長に就任 |

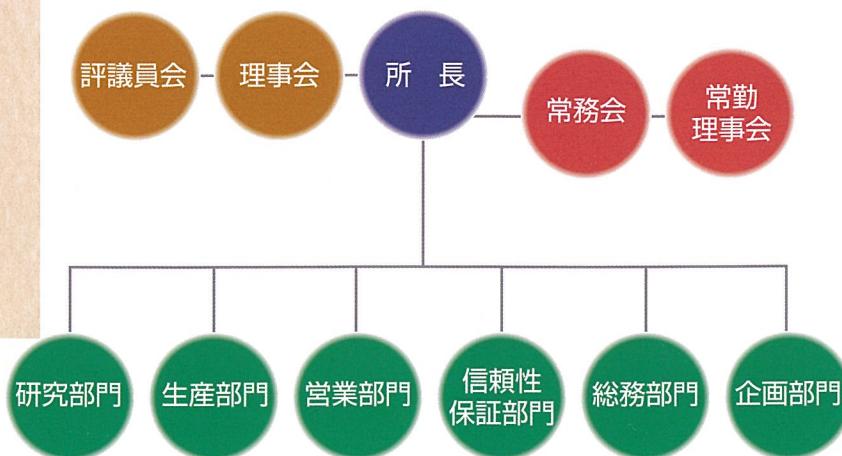
第8代所長

内野 稔自
(平成12年7月～平成16年7月)

事務系出身者として、財務・総務関連業務に長く携わった後、2000(平成12)年7月に就任。財務的観点から経営管理レベルの向上、更には地域社会への貢献を推進した。またISO14001の認証取得をはじめ環境問題にも対応した。

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1935年(昭和10年) | 熊本県熊本市生まれ |
| 1958年(昭和33年) | 熊本商科大学商学部卒業 |
| 1958年(昭和33年) | 財団法人化学及血清療法研究所入所 |
| 1990年(平成2年) | 財団法人化学及血清療法研究所理事に就任 |
| 2000年(平成12年) | 財団法人化学及血清療法研究所理事長・所長に就任 |
| 2001年(平成13年) | 学校法人銀杏学園理事長に就任 |
| 2003年(平成15年) | 熊本県経営者協会会長就任 |

〔組織図〕



〔役員〕

理事長(常勤)	船津 昭信	当所所長
常務理事(常勤)	内倉 重人	当所副所長 営業・総務・企画部門担当、系列担当
常務理事(常勤)	田代 昭	当所研究部門担当
常務理事(常勤)	杉本 紘一	当所環境担当、化血研ビジネスサービス(株)・中国合弁会社担当
常務理事(常勤)	岡 徹也	当所生産部門担当
理事(常勤)	藤川 英雄	当所生産部門(動物用ワクチン)副担当
理事(常勤)	宮本 誠二	信頼性保証部門担当、当所生産部門(血漿分画製剤・製剤)副担当
理事(常勤)	溝上 寛	当所研究部門副担当
理事(常勤)	水野 弘道	当所総務・企画部門副担当、系列副担当
理事	徳臣 晴比古	熊本大学名誉教授 医療法人起生会名誉院長
理事	藤本 伸哉	元熊本県副知事 前ニュースカイホテル会長
理事	北野 邦俊	熊本県医師会長
理事	佐伯 順一	熊本県薬剤師会長
理事	穴見 盛雄	熊本県獣医師会長
理事	道家 直	元熊本県衛生公害研究所長
理事	川口 陸奥男	川口病院長
監事	藏元 昭一	藏元外科・胃腸科医院長
監事	田上 弘	税理士、元熊本西税務署長

第1章 総則

第1条 本財団は、財団法人 化学及血清療法研究所と称する。

第2条 本財団は、主たる事務所を熊本市大窪一丁目6番1号に置く。

2 本財団は、従たる事務所を次の地に置く。

- (1) 熊本県菊池市旭志川辺1314番地1
- (2) 熊本県阿蘇市永草2091番地
- (3) 熊本県菊池郡大津町大字杉水705番地1
- (4) 東京都港区白金台四丁目5番10号
- (5) 大阪市中央区博労町一丁目7番16号
- (6) 福岡市中央区桜坂一丁目15番9号
- (7) 長崎市扇町30番10号
- (8) その他理事会の議決により必要と認めた地

第3条 本財団は、予防医学に関する研究を行うと共に生物学的製剤等の製造と頒与に従事し、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資することを目的とする。

第4条 本財団は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 予防医学並びに血液学に関する研究・調査
- (2) 予防並びに保健衛生の普及向上に関する社会的協力
- (3) 生物学的製剤及び予防又は治療医学上必要な薬品等の製造と頒与及びこれに付随する業務
- (4) 臨床病理検査
- (5) 医療技術者の養成
- (6) 診療機関の経営
- (7) 印刷物の刊行
- (8) 育英事業
- (9) その他本財団の目的達成上必要と認める事業

売上げ高推移

職員数推移

売上高
(百万円)

30,000

25,000

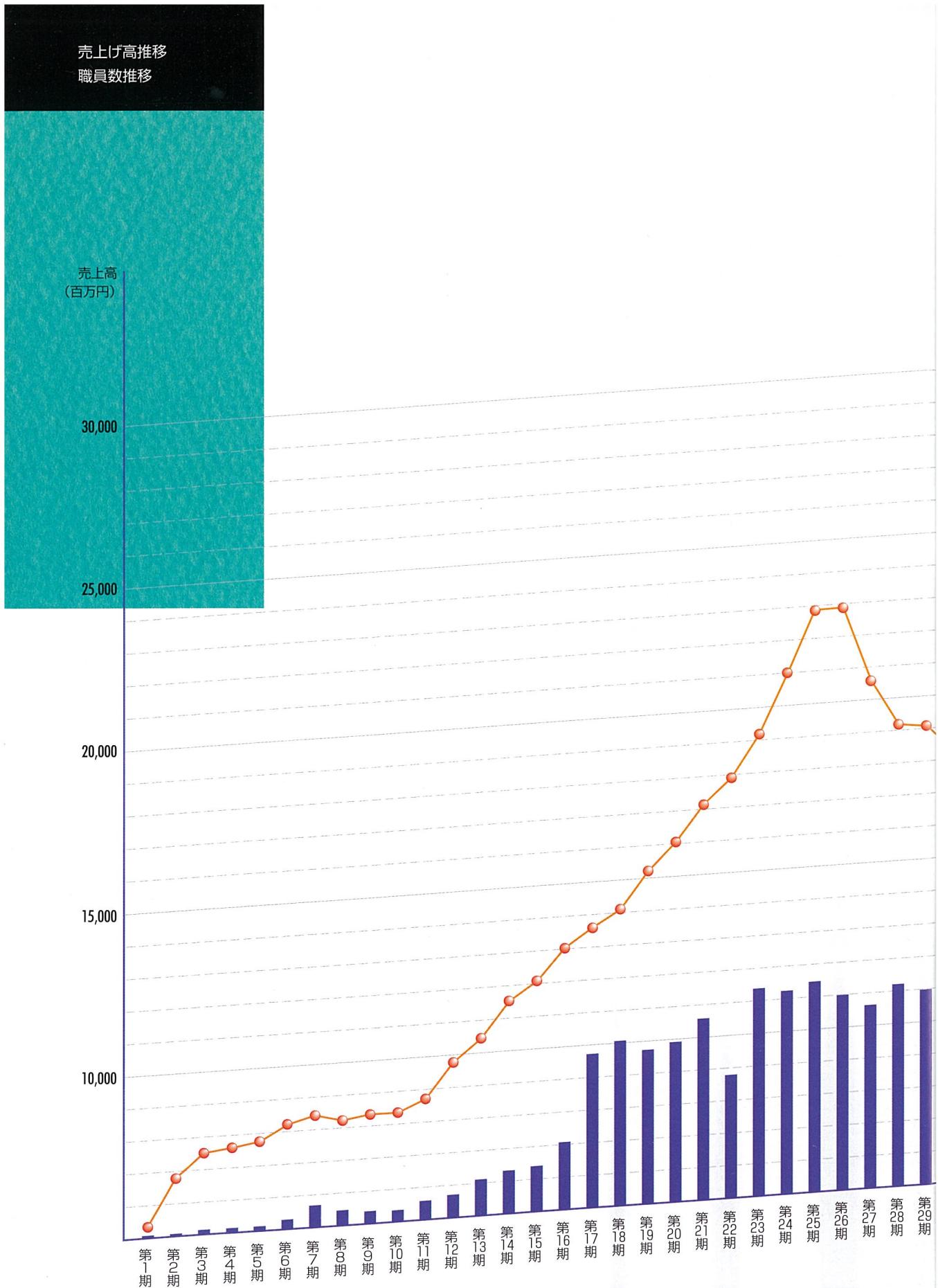
20,000

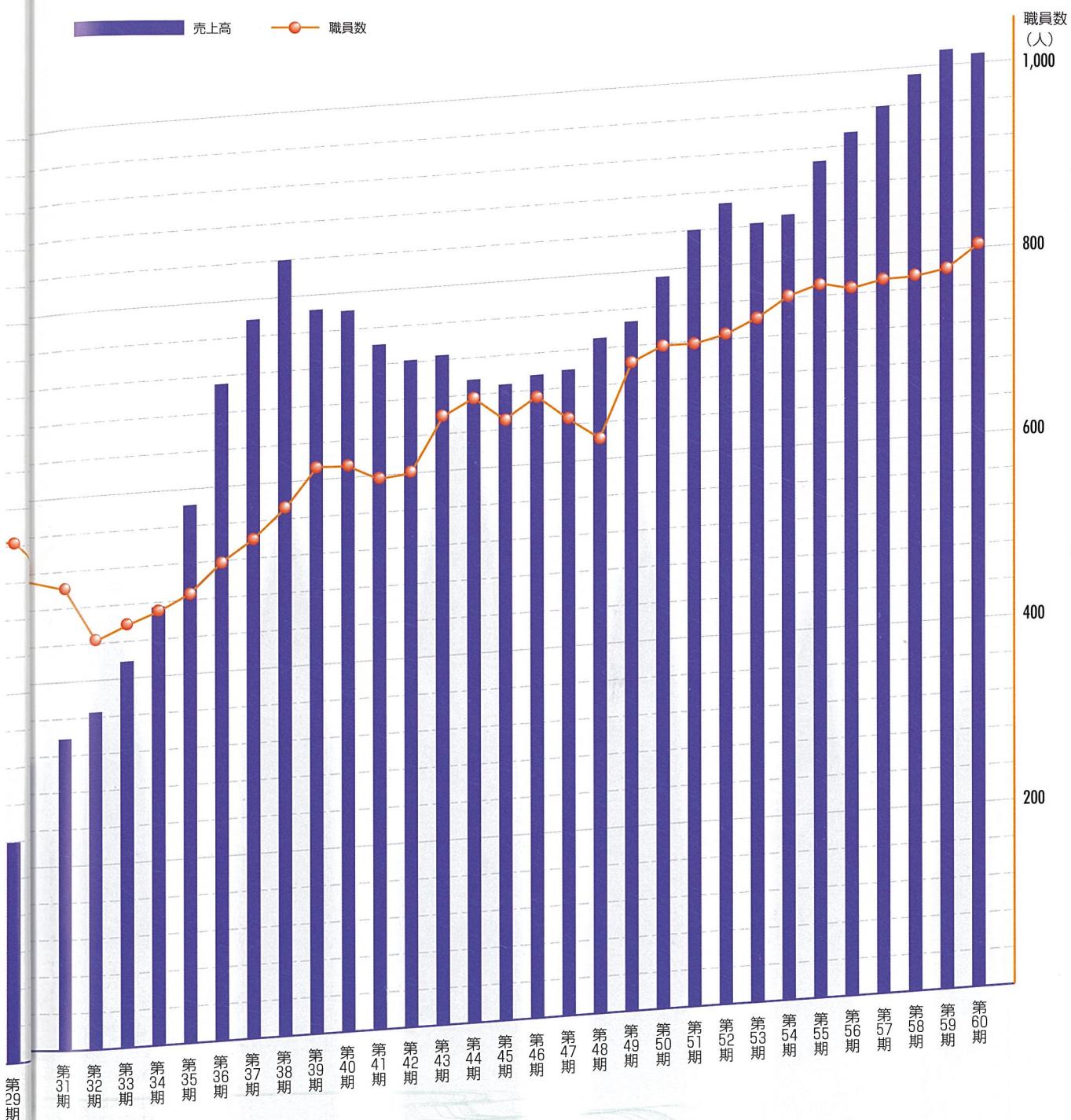
15,000

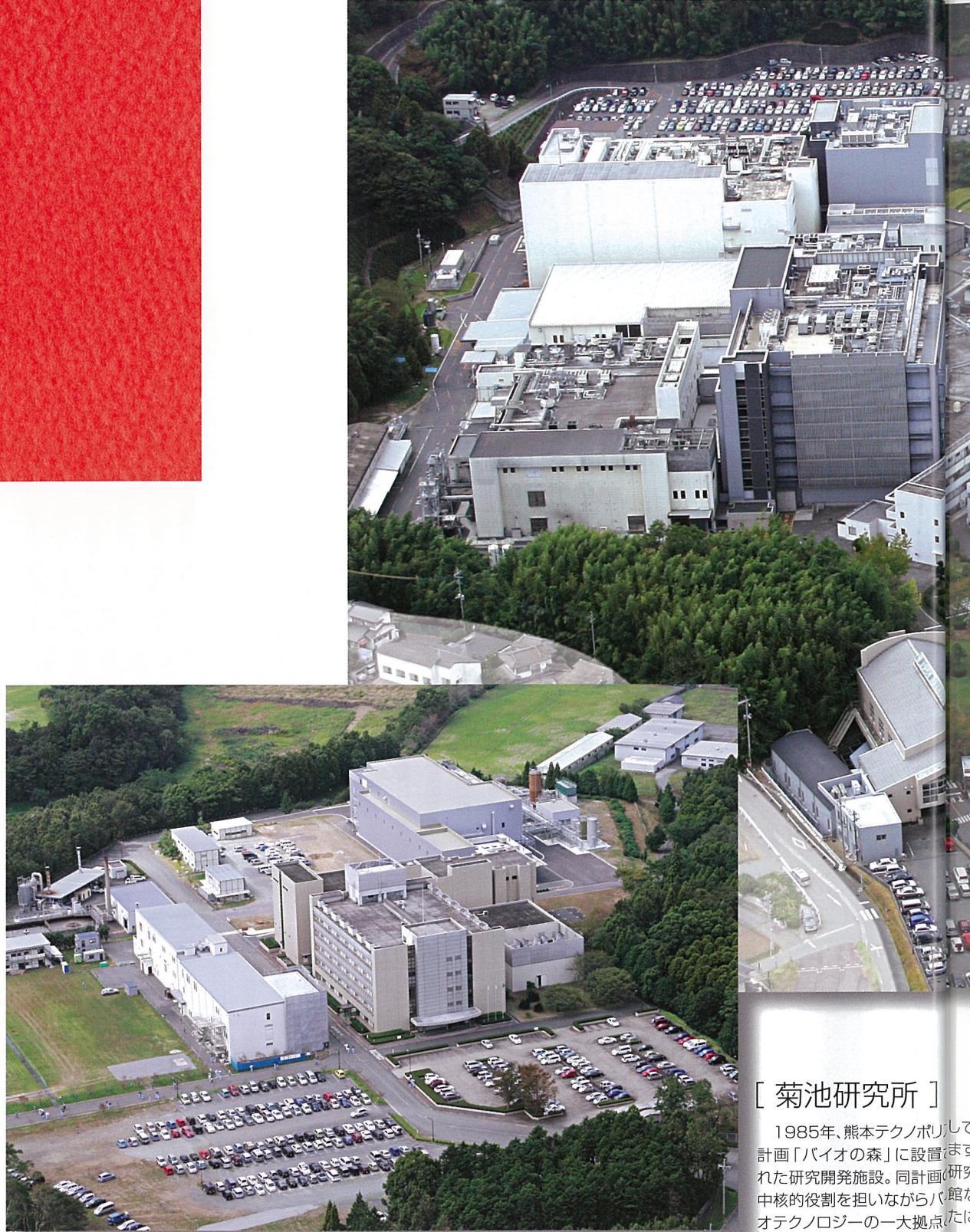
10,000

第1期 第2期 第3期 第4期 第5期 第6期 第7期 第8期 第9期 第10期 第11期 第12期 第13期 第14期 第15期 第16期 第17期 第18期 第19期 第20期 第21期 第22期 第23期 第24期 第25期 第26期 第27期 第28期 第29期

第1期 第2期 第3期 第4期 第5期 第6期 第7期 第8期 第9期 第10期 第11期 第12期 第13期 第14期 第15期 第16期 第17期 第18期 第19期 第20期 第21期 第22期 第23期 第24期 第25期 第26期 第27期 第28期 第29期







【菊池研究所】

1985年、熊本テクノポリ[†]として
計画「バイオの森」に設置された研究開発施設。同計画の中核的役割を担いながらバ
イオテクノロジーの一大拠点[†]た。



[化血研本所]

1972年、「清水研究所」が京町研究所に代わって本所となり、機能を整備。約147,000m²の敷地内にY字型の本館、血漿分画製剤製造棟、ワクチン製造棟、管理棟、厚生会館などがあり、2005年には新たに新製剤棟(NR棟)が完成。恵まれた施設環境の中で研究・製造・営業・信頼性保証・管理の各部門が機能しています。

さまざまな先端技術を生み出している。約248,000m²の広大な敷地内に研究棟、実験動物棟、試作研究棟、厚生会館などを完備しており、2005年には新たにKR工場(第Ⅰ期)が完成しました。



[阿蘇支所]

阿蘇山をバックに広がる118,000m²の敷地内に管理棟および厩舎、SPFの鶏舎、アヒル舎、豚舎などを備え、SPF動物の生産や蛇毒などの抗毒素血清の製造などを行っています。2003年には新たに抗毒素関連施設が完成しました。



[福利厚生施設]

本所厚生会館「ふれあい」
菊池研厚生会館「こもれび」

優れた製剤の開発は、健康な身体と豊かな心を有した人材の力が大きいと考え、化血研では福利厚生面にも力を注いでいます。本所と菊池研究所のそれぞれに、労使協定の特別福祉基金制度に基づく厚生会館を設置し、職員の心身の充実を図っています。

関連法人



[学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学]

1959年に公益事業の一環として当所が設立した衛生検査技師養成所を前身として、学校法人銀杏学園・銀杏学園短期大学（3年制）を経て、平成15年4月に4年制大学として開学しました。保健科学部内に衛生技術学科と看護学科の2学科を置き、医療技術者の養成を行っています。



[医療法人杏和会 城南病院]

総病床数238を有し、内科・神経内科・呼吸器科・整形外科・リハビリテーション科・皮膚科・精神科と広範囲にわたる診療を行っています。

化血研 **60**年 の歩み

年表

■ 化血研60年のあゆみ

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
<p>●GHQ、公衆衛生に関する覚書発表</p> <p>●フレミング(英)らにノーベル医学生理学賞</p>	<p>1945 昭和20年</p> <p>12.26 ●設立許可(熊本県知事平井章)事務所 (大江町大江641番地)</p> <p>●暮らから21年にかけての4ヵ月間にわたり 全国7千万人分の痘苗生産(GHQ命令)</p>	
<p>●日本公衆衛生学会創立</p> <p>●発疹チフス、コレラ、日本脳炎流行</p>	<p>1946 昭和21年</p> <p>1.16 ●医薬品製造業申請書提出(初回)</p> <p>4.30 ●腸チフス・パラチフス・コレラワクチン 製造開始</p> <p>6.8 ●医薬品製造業申請に係る許可(許可15・不許可2・保留13品目)</p> <p>10.16 ●破傷風予防液製造承認</p>	<p>●研究所の発祥の地 (米屋町2丁目1番地)</p>
<p>●日本医師会創立</p>		<p>4.9 ●主たる事務所移転(古京町無番地元輜重隊跡へ、京町研究所)</p>
<p>●京都ジフテリア事件</p> <p>●予防接種法公布</p>		<p>9. ●化血研労働組合結成</p> <p>10.17 ●従業員慰安会開催</p>
	<p>1947 昭和22年</p> <p>4.1 ●山崎正董第2代所長 (S23.4～S23.12)</p> <p>5.15 ●厚生省の指示により実験医学研究所の業務一部を統合し当所を発展的に改組</p> <p>12.2 ●小山信説第3代所長 (S23.12～S31.7)</p>	<p>5. ●診療室設置</p>
<p>●発疹チフス各地に発生</p>	<p>4.30 ●痘苗・腸チフス・パラチフス混合ワクチン・ 発疹チフスワクチン・コレラワクチン・ 百日咳ワクチン・ジフテリアトキソイド・ 破傷風抗毒素・ジフテリア抗毒素製造 承認</p>	<p>1. ●厚生省查察 (厚生省薬務局長名にて)</p>
<p>●狂犬病多発</p>	<p>7.7 ●見返資金融資許可300万円</p> <p>8.24 ●動物用医薬品製造業許可</p> <p>10.1 ●機構改正(総務部、技術部、研究部)</p> <p>10.1 ●細菌製剤販売(株)設立</p>	<p>4. ●育英制度実施</p> <p>6. ●痘苗緊急生産指令</p> <p>11. ●東京連絡所開設</p>
		<p>●GHQより査察(ボーズマン氏)</p>



米屋町鍵屋(昭和21年)化血研発祥の地の建物



京町研究所の門および建物(昭和21年)

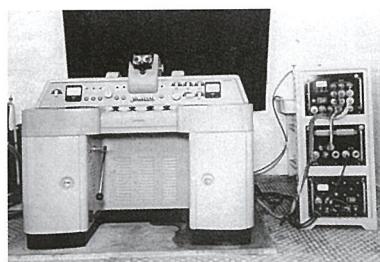


初期の臨床検査(昭和21年)

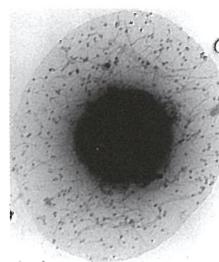
医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
●日本臨床病理学会創立	10.7 ●ツベルクリン製造承認 10. ●動物用医薬品製造開始 11.22 ●動物用狂犬病予防液製造承認 12.22 ●動物用破傷風予防液製造承認	7.20 ●化血研が初めて新聞のコラムで取上げられる(熊日) 12.20 ●東京連絡所(白金台)新築
●血液銀行スタート(日赤中央病院) ●日本ウイルス学会・日本アレルギー学会・日本輸血学会創立	4.3 ●流行性脳炎(日本脳炎)予防液製造承認 5. ●動物用製剤部門設立 5.22 ●ABO式血液型判定用血清“化血研”製造承認 12.12 ●破傷風トキソイド製造承認	1.25 ●熊本国税局管内法人所得番付第2位 1位—中央紡績81,156千円 2位—化血研25,677千円
●ワトソンとクリックがDNAの二重らせん構造を提唱 ●ソーク(カナダ)、ポリオワクチン開発 ●薬価基準大幅改正(90%バルクライン方式) ●長野泰一ら、ウイルス抑制因子(インターフェロン)を発見	3.11 ●豚コレラクリスタルバイオレット予防液製造承認 3.18 ●インフルエンザワクチン製造承認 10.2 ●豚丹毒血清製造承認 ●ニューカッスル病予防液製造承認 2.21 ●狂犬病ワクチン製造承認 5.4 ●株式会社化血研設立 6.19 ●化血研ACD液製造承認申請 12.2 ●乾燥痘苗製造承認	1.16~20 ●第1回家畜衛生講習会開催 7.1 ●古京町に血液センター(熊本血液銀行)設置 8.29 ●電子顕微鏡設置(日立製、九州で設置第1号)
●インフルエンザ大流行 ●厚生省、国民皆保険等を内定 ●オチョア(スペイン)、RNAを試験管内で合成	1.27 ●ワイル病治療血清製造承認 2.23 ●保存血液製造承認 4.22 ●蛇毒(蝮、飯匙)抗毒素製造承認 4.23 ●経営危機突破方策研究委員会設置 8.12 ●鷄痘予防液(孵化鷄卵尿膜)製造承認 8.23 ●日本脳炎ワクチン製造承認 11.16 ●人血漿製造承認	10. ●大阪連絡所開設
	4.7 ●化血研乾燥鷄痘予防液製造承認 9.15 ●蛇毒(蝮)抗毒素製造承認 11.5 ●化血研ニューカッスル病予防液製造承認	2.16 ●長崎連絡所開設 (4.1長崎出張所と改称)



腸パラチフス、百日せき、痘瘡ワクチン等の製品
(昭和28年)



電子顕微鏡(昭和28年)化血研第1号電子顕微鏡



第1号で撮ったインフルエンザウイルス(昭和30年)

1945-1955

1955-1967 1967-1974 1967-1982 1975-1990 1983-1990 1990-1996 1997-2005

1997-2005 1983-1990 1990-1996 1975-1990 1967-1982 1955-1967 1945-1955

■ 化血研60年のあゆみ

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
●ソーク、ポリオワクチンを実用化	1955 昭和30年 11.28 ●化血研気腫そ明ばん予防液製造承認	
●医薬分業制を実施 ●インフルエンザ大流行 ●コーンバーグ(米)、高分子DNAを合成	1956 昭和31年 8.1 ●竹屋男綱第4代所長 (S31.8～S45.8) 11.15 ●化血研気腫そ予防液製造承認	1.24 ●福岡支所(福岡血液銀行)開設
●セービン(米)、ポリオ生ワクチンを開発 ●バーネット(豪)、免疫のクローナン選択説を提唱	1957 昭和32年 夏 ●インフルエンザ(A-アジア57型)の流行に伴うワクチン製造 9.10 ●ジステンバー予防液製造承認	12.8 ●アサヒグラフ(12.8号)に「当所の電子顕微鏡がとらえたインフルエンザウイルス(A-アジア57型)」が掲載される(表紙)
●国民健康保険法公布 ●衛生検査技師法公布 ●小児マヒ流行、患者数2,000名を越える	1958 昭和33年 4.21 ●化血研日本脳炎高力価予防液製造承認 ソーウワクチン試作開始(予研・メーカー)	11. ●シャープレス超遠心機導入
●日本肝臓学会創立 ●米ソでポリオ生ワクチン実用化	1959 昭和34年 2.27 ●化血研乾燥狂犬病予防液製造承認 4.18 ●百日せきジフテリア混合ワクチン製造承認 11.12 ●炭疽予防液製造承認	3. ●ポリオ棟竣工 3.31 ●衛生検査技師養成所設立 4.1 ●医療法人松寿会緑ヶ丘病院発足(現・城南病院) 6. ●ポリオ課設立
●小児マヒ、ジフテリア、日本脳炎大流行 ●日本臨床血液学会創立 ●バイス(独)ら、RNAポリメラーゼを発見	1960 昭和35年 7.9 ●CSG(犬血清ガンマグロブリン)製造承認	2.5 ●長崎支所(長崎血液銀行)開設 4.1 ●熊本医学技術専門学校開校(名称変更)
●ポリオワクチン(1,300万人分)を緊急輸入 ●日赤、愛の献血運動始める	1961 昭和36年 1.24 ●化血研動物用紫外線不活化狂犬病予防液製造承認 3.9 ●化血研乾燥ジステンバー予防液製造承認 3.9 ●家きんジフテリア予防液製造承認 4.25 ●ポリオワクチン製造承認	7.2 ●大阪事務所開設 9.9 ●創立15周年祝賀式



ポリオ製造棟(昭和34年)



阿蘇支所(昭和37年)



インフルエンザワクチンの製造風景

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
●コレラ予防のため台湾バナナの輸入を禁止		10.5 ●阿蘇支所開設(竣工式)
●中央薬事審議会特別部会、新薬認可における動物試験資料提出義務づけを答申	7.14 ●乾燥牛流行性感冒(家衛試毒)予防液 製造承認	5.31 ●電話交換機(共電式)設置
●血液事業の閣議決定、有償採血を廃止。献血、預血のみとなる ●国産ポリオワクチン完成 ●エーデルマン(米)、抗体分子の1次構造を解明	3.26 ●家きんジフテリア血清製造承認 8.16 ●乾燥豚丹毒予防液製造承認	2. ●ハイジェッター(自動皮下噴射 注射器)導入 5.10 ●鹿児島支所(鹿児島血液銀行) 開設 9.1 ●適格退職年金制度導入
●ニーレンバーグ(米)ら、遺伝暗号を解読 オーストラリア抗原(Au抗原)発見される	2.26 ●牛人工受精用希釈液3品製造承認 3.7 ●化血研犬ジステンパー肝炎混合乾燥ワクチン製造承認 3.19 ●百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン製造承認 5.12 ●採血びん入り血液保存液製造承認 12.1 ●乾燥はぶ抗毒素製造承認	10.28 ●緊急車(血液販売)購入
●国民健康保険法改正公布 ●石坂公成ら、IgEを発見	3.5 ●沈降破傷風トキソイド製造承認 7.16 ●乾燥まむし抗毒素製造承認 8.17 ●けいとう予防液化血研製造承認 9.1 ●人工受精用細菌抑制剤(カナマイシン) 製造承認 10.8 ●不活化麻しんワクチン製造承認 12.24 ●化血研ガンマーグロブリン製造承認	6.25 ●創立20周年祝賀式 7.19 ●福利厚生委員会設置 7.30 ●安全衛生委員会設置 10. ●日本脳炎ワクチン精製用超遠心機(55P)導入 12.31 ●福岡血液銀行廃止 ●ニューカッスル病不活化予防液 緊急生産(農林省命)
●血液銀行協会、貢血中止決定 ●医薬品副作用モニター制発足	5.30 ●人血清アルブミン“化血研”製造承認 ●血漿分画製剤製造開始	3.31 ●鹿児島、長崎血液銀行廃止・長崎支所廃止 4.1 ●鹿児島臨床検査センター新設 (名称変更)



シャープレス超遠心分離器(昭和39年)



日本脳炎ワクチン精製用超遠心機(昭和41年)

説明

1945-1955

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1990-1996

1997-2005

■ 化血研60年のあゆみ

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
	1967 昭和42年	
<ul style="list-style-type: none"> ●厚生省、製薬企業の新医薬品副作用報告制度を通達 ●医薬品製造承認等に関する基本方針発表 ●コーンバーグ(米)ら、増殖可能なウイルスDNAを合成 ●川崎富作、川崎病を発見 		<p>5.31 ●福岡支所廃止</p>
	1968 昭和43年	
	<p>3.28 ●香港風邪流行のためインフル緊急生産 9.7 ●ツベルクリン製造承認</p>	<p>4.1 ●銀杏学園短期大学開校 4.29 ●所長竹屋男綱勲二等瑞宝章受賞</p>
	1969 昭和44年	
	<p>4.28 ●“化血研”穿刺用鶏痘乾燥予防液製造承認 7.9 ●鶏伝染性喉頭気管炎生ウイルス予防液製造承認 7.28 ●馬バラチフス血清製造承認 9.15 ●清水研究所製造業許可</p>	<p>8.1 ●清水研究所開設 8. ●コンピューター(日本無線J-1) 10)導入 10. ●医療法人杏和会城南病院発足 10.31 ●清水研究所第1期工事落成</p>
	1970 昭和45年	
<ul style="list-style-type: none"> ●臨床検査技師制度創設 ●厚生省、種痘ワクチン接種中止 ●日本免疫学会創立 ●コラナ(米)、遺伝子DNAを人工合成 	<p>1.27 ●鶏伝染性気管炎生ウイルス予防液 製造承認 3. ●組織制度調査室設置 6.8 ●鶏伝染性気管炎不活化予防液製造承認 9.1 ●六反田藤吉第5代所長 (S45.9~S59.3)</p>	<p>3.31 ●鹿児島臨床検査センター閉鎖 4.30 ●鹿児島支所廃止</p>
	1971 昭和46年	
<ul style="list-style-type: none"> ●多田富雄ら、サブレッサーT細胞発見 	<p>4.1 ●資格制度実施 8.5 ●コリーザワクチン“カケツケン”製造承認 8.9 ●ND・IB不活化混合ワクチン“化血研” 製造承認 12.8 ●日本脳炎生ウイルス乾燥予防液製造承認 12.21 ●組織改訂</p>	<p>3.2 ●所内報発行のための編集委員会設置 3.31 ●阿蘇支店SPF鶏舎建設 4.10 ●所内報「いしがき」第1号発行 6.14 ●苦情処理委員会設置 12. ●生産管理システム導入</p>



IBD感染鶏



牛の採血(阿蘇支所)

医学界の流れ

化血研の開発・組織・経営関連の歴史

化血研の建物・施設・その他の歴史

1972

昭和47年

1. ●第1回新製品開発委員会
- 1.22 ●職務分掌規程承認
- 3.26 ●第1回昇格試験
3. ●三光純薬(株)と臨床検査試葉取引契約
- 4.1 ●メルクアンドカンパニーインコーポレーションとMD生ワクチンの技術提供契約(デブターパック・HVT製造)
- 4.22 ●インフルエンザHAワクチン製造承認
- 5.1 ●日本商事(株)と臨床検査試葉の販売契約
- 6.21 ●デブターパック-HVT製造承認
- 8.10 ●静注グロブリン開発着手
- 11.24 ●豚伝染性胃腸炎ウイルス乾燥予防液製造承認
- 12.13 ●イバラキ病予防液製造承認

1973

昭和48年

●コーエン(米)ら、DNA組換え技術を開発

- 3.15 ●ジフテリア破傷風混合トキソイド製造承認
- 9.5 ●牛ウイルス性下痢症(BVD)生ウイルス予防液製造承認
- 12.4 ●インフルエンザワクチン委員会設置
- 12.21 ●ニューカッスル病生ウイルス予防液LF製造承認

1974

昭和49年

●国際赤十字献血年

- 1.7 ●マレックワクチン“カケツケン”製造承認
- 1.30 ●牛流行熱生ウイルス予防液製造承認
- 4.6 ●ニューカッスル・IB混合生ワクチン“カケツケン”製造承認
- 7.26 ●牛伝染性鼻気管炎ウイルス予防液製造承認
- 10.20 ●帝人との共同研究によるベニロン開発着手(共同開発契約締結)

- 4.1 ●主たる事務所を清水町に移転し、本所と称す(日本所→京町研究所と称す)



ベニロンの研究、実験(昭和49年)



ベニロンの薬理試験(昭和49年)

1945-1955

1955-1967

1967-1974

1975-1982

1983-1990

1990-1996

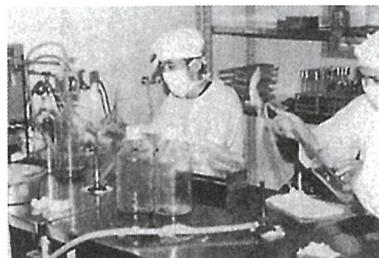
1997-2005

■ 化血研60年のあゆみ

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
1975 昭和50年	<p>●百日せきジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド予防接種中止命令</p> <p>●ケーラー(独)ら、モノクローナル抗体を作成</p>	<p>8.8 ●沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 製造承認</p> <p>8.28 ●乾燥豚丹毒生ワクチンN製造承認</p> <p>11.5 ●静注ガンマーグロブリン製造承認</p> <p>11. ●血液製剤輸入原料購入開始</p>
1976 昭和51年	<p>●風疹大流行</p> <p>●予防接種法改正で被害者救済制度創設</p> <p>●米NIH、遺伝子組換え実験指針を発表</p> <p>●米仮でウイルスのがん遺伝子を分離</p>	<p>2.1 ●静注ガンマーグロブリン発売、日本商事と血漿分画製剤取引契約</p> <p>2.24 ●馬インフルエンザワクチン「化血研」 製造承認</p> <p>6.1 ●大日本製薬(株)と動物ワクチンの取引開始</p> <p>6.14 ●豚パルボワクチン“カケツケン”製造承認</p>
1977 昭和52年	<p>●中学3年女子に風疹予防接種を義務化</p> <p>●ロバーツら、アデノウイルスでスプライニングを発見</p>	<p>●森下製薬(株)と血漿分画製剤取引契約締結</p> <p>3.10 ●“化血研”ND不活化予防液製造承認</p> <p>5.28 ●アルブミン5%、20%製造承認</p> <p>9.13 ●アルブミン20%化血研発売</p> <p>10. ●新生児先天性代謝異常検査開始 ●立野由来豚コレラフリー豚阿蘇支所に導入 ●SPFチェック技術確立</p>
1978 昭和53年	<p>●インフルエンザ大流行、患者300万人</p> <p>●米エイズ患者発見</p>	<p>6.9 ●狂犬病精製ワクチン製造承認</p> <p>8.1 ●コンファクト8(乾燥濃縮抗血友病人グロブリン)製造承認</p> <p>9.18 ●NC混合ワクチン予防液製造承認</p> <p>11.30 ●ACD液入採血瓶の製造中止</p>
1979 昭和54年	<p>●医薬品副作用被害救済基金法公布</p> <p>●WHO 天然痘根絶宣言</p>	<p>2.16 ●アカバネ病不活化予防液製造承認</p> <p>3.22 ●京町研由来HPCD豚阿蘇支所に導入</p> <p>4.1 ●コンファクト8発売</p> <p>5.22 ●ベニロン製造承認</p> <p>6.1 ●帝人(株)とベニロンの販売契約</p>



SPF豚舍 (昭和53年)



日脳ウイルス採液 (昭和55年)



本所全景 (昭和53年)

医学界の流れ

化血研の開発・組織・経営関連の歴史

化血研の建物・施設・その他の歴史

1980

昭和55年

- 種痘、定期予防接種から除外
- 米で遺伝子工学によるインターフェロン生産に成功
- 米カリフォルニア大学で初の遺伝子治療の試み

- 1.1 ●藤沢薬品工業(株)とアルブミン取引開始
- 2.1 ●ベニロン発売
- 6.10 ●組織培養不活化狂犬病ワクチン製造承認
9. ●遺伝子組換えB型肝炎、阪大分子遺伝松原謙一教授と共同研究開始
10. ●遺伝子組換え実験本格的に始まる
- 11.6 ●乾燥弱毒生風しんワクチン製造承認

- 4.29 ●理事市原鶴雄勲四等瑞宝章受賞
- 5.1 ●専門職嘱託制度導入
- 5.1 ●技術嘱託・事務嘱託制度導入
- 6.16 ●TQC導入
 - ファクシミリ、パソコン、マイクロフィルムTSSオンライン情報検索ワープロなどのOA機器導入始まる

1981

昭和56年

- ウイルス肝炎研究財団発足
- 遺伝子工学的製剤生産(京大で肝臓葉グルタチオン、米で免疫インターフェロン、肝炎ワクチン)

- 1.29 ●犬ジステンパー・肝炎混合ワクチン“化血研”製造承認
- 3.20 ●沈降精製百日せきワクチン製造承認
- 3.20 ●沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン製造承認
- 4.1 ●日本ワクチン(株)とAR生ワクチン共同開発契約
- 4.16 ●ILT生ワクチン“化血研”製造承認
- 4.16 ●アカバネ病生ワクチン“化血研”製造承認
- 8.26 ●乾燥日本脳炎ワクチン製造承認

- 1.27 ●組換えDNA実験安全委員会発足
- 8.22 ●化血研第2期工事(S棟)竣工式
- 12.23 ●所長六反田藤吉毎日工業技術賞受賞

1982

昭和57年

- 厚生省、医薬品安全性試験実施基準(GLP)を設定
- 京大ウイルス研に遺伝子銀行設置
- 英米で遺伝子工学的手法によるインターフェロンに販売許可
- プリンスター(米)ら、トランスジェニック動物を創成
- 米で血液製剤によるエイズ感染報告

- 3.26 ●組織培養不活化狂犬病ワクチン製造承認
- 5.19 ●NB混合ワクチン製造承認
- 6.9 ●犬パルボ不活化ワクチン“化血研”製造承認
- 8.23 ●日本フーラボラトリーズ(株)と臨床検査試薬の東南アジア地域における販売契約
- 10.1 ●米国Hybritech社とヒト型抗ガンモノクローナル抗体の共同研究契約
11. ●米国Biogen社と組換え第VII因子の共同研究契約
- 12.23 ●乾燥弱毒生風疹ワクチン販売

- 1.7 ●臨床試験安全管理委員会設置
- 3.10 ●理事村方正信・大友信也大河内記念賞受賞(静脈注射用人免疫グロブリン製剤の開発)
- 4.1 ●販売管理第1次システム開始
- 5.27 ●放射性同位元素使用許可(科学技術庁)
- 6.30 ●所長六反田藤吉熊日賞受賞
- 8.2 ●第1回TQC発表大会
- 8.16 ●酵母によるrDNA・HBs抗原発現成功報道(朝日新聞)
10. ●遺伝子組換え実験室、本所P2、P3施設完成
12. ●本所RI施設完成



日本脳炎ワクチンの製造(昭和53年代)



ノトバイオート豚の生産(昭和50年代)



炭疽ワクチン集菌(昭和58年)

1945-1955

1975-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

1967-1982

1983-1990

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1955-1967

■ 化血研60年のあゆみ

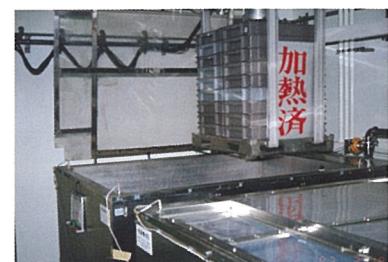
医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
1983 昭和58年		
<ul style="list-style-type: none"> ●エイズが社会問題化 ●英でヒツジとヤギのキメラ動物を合成 ●谷口ら、インターロイキン2の遺伝子構造を解明 	<p>2.4 ●HBワクチン共同研究契約（タイ国ウイルス研究所）</p> <p>7.1 ●米国Seragen社とキメラトキシンの共同研究契約</p>	<p>4.1 ●第2次長期経営計画（昭58～62）スタート</p> <p>4.2 ●部長大橋高明、主任研究員田代昭、日本化学会化学技術賞受賞</p> <p>4.22 ●理事大友信也、科学技術庁長官賞受賞</p> <p>6.6 ●資格制度改革（定年57歳から60歳に延長）</p>
1984 昭和59年		
<ul style="list-style-type: none"> ●B型肝炎ワクチン製造を承認 ●米国立癌研、エイズウイルス分離に成功と発表 	<p>1.24 ●狂犬病TCワクチン“化血研”製造承認</p> <p>3.19 ●野中實男第6代所長（S59.3～H8.2）</p> <p>3.30 ●“組換えHBワクチン製造技術開発”新技術開発事業団委託契約</p> <p>8.1 ●テナノセーラ（乾燥抗破傷人免疫グロブリン）製造承認</p> <p>8.9 ●ニチメン経由でワクチン輸出開始</p> <p>8.27 ●HBワクチン及びヘパトセーラ（HBIG）製造承認</p>	<p>9. ●給与の銀行振込スタート</p> <p>10.1 ●提案制度導入</p> <p>10.4 ●中曾根首相来所</p> <p>11.1 ●生産管理第1次システム開始</p> <p>12.1 ●六反田文庫設立</p>
1985 昭和60年		
<ul style="list-style-type: none"> ●日本のエイズ患者第1号確認 ●第Ⅷ因子製剤を加熱処理に変更 ●神經芽細胞腫検診開始 	<p>4. ●組換えHBワクチンの臨床試験実施承認</p> <p>4.16 ●沈降HBワクチン及び乾燥抗HBs人免疫製造承認</p> <p>5.30 ●ムンブスワクチン製造承認</p> <p>5.15 ●鶏伝染性ファブリキウスマニッシュ病ワクチン製造承認</p> <p>7.1 ●乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子製造承認（加熱処理）</p> <p>10.22 ●豚伝染性胃腸炎ワクチン（子豚用）製造承認</p> <p>10.22 ●IBR・BVD・PI三種混合生ワクチン製造承認</p>	<p>2.25 ●第一回熊大医学部・化血研ジョイントセミナー</p> <p>9. ●創立40周年記念講演会（今井通子）</p> <p>10. ●住宅融資利子補給制度導入</p> <p>10. ●安全性試験センター、病鑑センター新設</p> <p>11.19 ●菊池研究所竣工</p> <p>11.28 ●臨床安全委員会発足</p> <p>11.28 ●創立40周年記念式典</p>
1986 昭和61年		
<ul style="list-style-type: none"> ●母子感染予防にB型肝炎ワクチンを使用開始 	<p>2.10 ●乾燥人血液凝固第IX因子複合体製造承認（加熱処理）</p>	<p>12.26 ●本所厚生会館「ふれあい」竣工</p>



化血研40周年記念（昭和60年）



菊池研究所の全景（昭和61年）



加熱処理装置

医学界の流れ

化血研の開発・組織・経営関連の歴史

化血研の建物・施設・その他の歴史

1986

昭和61年

1987

昭和62年

1988

昭和63年

1989

平成元年

- 国内初の女性エイズ患者認定
- エイズ感染者986人とエイズ感染広がる
- 利根川進にノーベル医学生理学賞

- 米カイロン社、C型肝炎ウイルス遺伝子の一部分離に成功
- 米でヒトゲノム計画始まる

- エイズ予防法施行
- MMRワクチン使用開始
- 先天性血液凝固因子欠損患者の医療費、公費負担に
- 日赤血液センター、C型肝炎ウイルス検査開始

- 4.27 ●豚ポルデテラ感染症生菌ワクチン製造承認

- 8.15 ●HBs抗原測定EIA試薬及びTSH EI A試薬製造承認

- 8.28 ●セロクリットー抗体HBs製造承認

- 10.1 ●販売株式会社三社合併、株式会社化血研となる

- 12.15 ●豚パルボ生ワクチン製造承認

- 12.15 ●産卵低下症候群-1976不活化ワクチン製造承認

- 12.15 ●鶏伝染性コリーザ(A・C型)不活化ワクチン製造承認

- 3.29 ●組換え沈降B型肝炎ワクチン製造承認

- 8.15 ●ビブリオ病不活化ワクチン製造承認

- 4.6 ●クレチン症スクリーニングキット製造承認

- 4.21 ●マレック病生ワクチン“化血研”製造承認

- 6.6 ●オースキー病ワクチンについてアップジョン社と提携契約

- 7.26 ●ILT凍結生ワクチン“化血研”製造承認

- 7.30 ●経営危機突破委員会発足

- 8.11 ●豚大腸菌コンポーネントワクチン製造承認

- 8.11 ●乾燥馬静注用グロブリン製造承認

- 12.6 ●トリレオ不活化ワクチン製造承認

- 12.8 ●牛アデノウイルス感染症生ワクチン製造承認

- 12.8 ●ニューセロクリットー抗HBs

- 3.3 ●遺伝子組換えB型肝炎製造棟竣工

- 11.30 ●菊池研究所見学者のべ1,800人

- 1.18 ●コンピューター(ACOS610)導入

- 11.28 ●熊本市と公害防止協定締結

1. ●京町研究所を熊本市へ譲渡
(平成1年1月～平成5年4月)

- 3.14 ●阿蘇支所SPF豚舎竣工
●血液中ウイルスを濾過するフィルターを旭化成と共同開発

熊本市と公害防止協定締結(昭和63年)

自動ボトルカッティングマシン(昭和60年代)

融解棚

1945-1955

1955-1967

1983-1989

1997-2005

1990-1996

1967-1974

1975-1982

1983-1989

1997-2005

1945-1955

■ 化血研60年のあゆみ

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史	
●医薬品の臨床試験の実施に関する基準(GCP)制定 ●国立がんセンター等、C型肝炎ウイルスの全遺伝子解読に成功	1990 平成2年	1.29 ●チュウザン病不活化ワクチン製造承認 5.24 ●日本脳炎・豚パルボ混合生ワクチン製造承認 6.27 ●寄附行為の変更(熊本県から厚生省へ所管変更) 10.3 ●犬ジステンバー伝染性肝炎、パルボウイルス感染症不活化混合ワクチン製造承認	3.14 ●理事大橋高明、部長水野喬介、室長濱田福三郎、課長溝上寛、博士大友信也、大河内記念賞受賞(遺伝子組換えB型肝炎ワクチンの製造技術の開発)
●薬価の新仕切価制へ移行	1991 平成3年	2.25 ●ニューセロクリットー抗HIV製造承認 3.4 ●ボルヒール製造承認 3.14 ●ニューセロクリットーHBs製造承認 6.7 ●トロンビン製造承認 6.14 ●ネスコートクロットAT-Ⅲ製造承認 6.25 ●副腎過成症スクリーニングキット製造承認 7.10 ●献血ペニロン他一物二名称の製造承認 ●乾燥濃縮人血液凝固第IX因子製造承認	4.1 ●生産管理第2次システム開始 8.8 ●菊池研究所試作棟竣工 8.8 ●菊池研究所第2動物棟竣工 10.2 ●マウス自動採脳機導入(当所開発)
●医薬品臨床試験に査察制度導入 ●薬事法改正(インフォームドコンセント) ●C型肝炎にインターフェロン保険適用 ●食鳥処理の事業の規制および食鳥検査に関する法律の施行	1992 平成4年	10.4 ●ケモセロEIA「HCV-NS-Ab」製造承認 5.25 ●豚オーエスキー病生ワクチン製造承認 11.16 ●豚コレラ豚丹毒混合生ワクチン製造承認	4. ●大阪支所・長崎支所および営業部第1課を(株)化血研へ吸収 6.5 ●本所事務棟(別棟)竣工 7.16 ●所長野中實男井上春成賞受賞
●インフルエンザワクチン接種率20.6%となる ●新薬等の再審査申請のための市販後調査実施基準(GP MSP)実施	1993 平成5年	3.1 ●オイルバックスNB ₂ G及びNB ₂ ACの製造承認 5.14 ●ケモセロEIA「JCC-2」製造承認 6.21 ●ネスコートBL-S製造承認(BLキットシリーズ)	3.9 ●配送センター竣工、新配送システム導入 4.4 ●化血研大阪ビル竣工 4. ●功績表彰開始 6.24 ●育児休業制度導入 10.1 ●化血研所報「黎明」創刊号発刊
			1.22 ●G棟竣工 4.1 ●完全週休2日制実施 4.15 ●京町研究所閉所 6.1 ●介護休業制度導入 12. ●品質保証およびGMP体制強化のため品質保証室設置



大河内賞の授賞式(平成2年3月)



メルク社との調印(平成5年)



阿蘇シンポジウム会場風景

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
●MMRワクチン接種中止 1993 平成5年	9.17 ●人工担体梅毒(TP)抗体測定試薬製造承認 12.1 ●乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ製造承認 12. ●MMR-IIワクチンについてメルク社と業務提携	
●予防接種法の一部改正 1994 平成6年	4.1 ●抗悪性腫瘍剤(コホリン)製造承認 5.20 ●エルジアーラP(a)製造承認 10.5 ●乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン製造承認	3.4 ●S棟増築竣工 4.27 ●菊池研究所厚生会館「こもれび」竣工 4. ●IBM(AS400)コンピュータ導入開始 6. ●化血研医療用医薬品プロモーションコード制定 10.5 ●パソコンネットワークサービス開始 11. ●本所新グランド完成
●アフリカでエボラ出血熱が流行 ●製造物責任法施行 1995 平成7年	7.7 ●豚バストレタキソイド“化血研”製造承認	2.16 ●化血研長崎ビル竣工 6.1 ●歴史記念委員会発足(創立50周年事業) 11.4 ●創立50周年記念講演会(内館牧子) 12.28 ●創立50周年記念式典
●病原性大腸菌(O-157)による集団食中毒患者多発 1996 平成8年	2.1 ●DPT回収を契機として、品質向上プロジェクトチーム発足 2.26 ●アポB測定キット“化血研”製造承認 3.4 ●酒匂光郎第7代所長(H8.3~H12.7) 5.21 ●牛流行熱・狂犬病混合不活化ワクチン“化血研”製造承認 8.28 ●オイルバックスMG製造承認 9.25 ●キメロン-HC製造承認 12.1 ●研究部門組織改編(5部体制に)	3.7 ●東京「エミナス自由が丘」竣工 3.29 ●HIV訴訟和解成立(東京、大阪)



GLP眼底検査



G棟北西面外観



IBM(AS400)コンピュータ

1997-2005 1990-1996 1983-1990 1983-1990 1975-1982 1967-1974 1967-1974 1955-1967 1945-1955

■ 化血研60年のあゆみ

医学界の流れ	化血研の開発・組織・経営関連の歴史	化血研の建物・施設・その他の歴史
●「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令(新GCP)」改正施行 ●第一回MR認定試験実施	1.29 ●オイルパックスReo製造承認 4.10 ●ニューセロクリットTP製造承認 6.30 ●IBD生ワクチン化血研L 7.1 ●組織改編(血液製剤研究部発足)	3.15 ●植樹祭(環境保全の一環として、「化血研の森林」の契約を熊本県林局と締結) 8.8 ●中国合弁会社の製造棟落成 8.27 ●TM棟竣工
●口タウイルスに対する最初のワクチンが開発される	1.16 ●バイオクリット-HBs製造承認 2.27 ●スイムジエンART2製造承認 8.19 ●レスピフェンドMH "化血研" 輸入承認	3.1 ●化血研50年史完成 5.29 ●感染症シンポジウム開催(福岡市)
●改正予防接種法施行	2.15 ●牛小型ピロプラズマ病スポロゾイト生ワクチン "化血研" 製造承認 4.1 ●(株)化血研の事業を財団へ移管	3.10 ●R棟竣工式 7.30 ●第13回 肥後の水資源愛護賞受賞 11.19 ●第1回阿蘇インターナショナルミーティング(AIM)開催
●介護保険制度創設・実施 ●薬価制度改定(従来の「R幅方式」から「市場実勢価格加重平均値調整幅方式」に変更)	3.10 ●組織培養インフルエンザワクチン開発技術の導入に関してカイロン社と契約 3.28 ●経営基本方針改定 3.31 ●試薬事業から撤退 7.27 ●内野洋自第8代所長(H12.7~H16.7) 9.22 ●注射用アナクトC製造承認 10.1 ●組織改編(製剤部発足) 12.12 ●ベニロンのギランバレー症候群に対する適応承認	10.2 ●ISO14001認証取得キックオフ大会
●予防接種法改正(65歳以上の高齢者に対するインフルエンザワクチン接種が勧奨接種となり、費用の一部が公費負担に)	3.28 ●オイルパックス6・7製造承認 9.7 ●ND生ワクチン "化血研" S製造承認 10.1 ●組織改編(生産技術部発足)	11.22 ●ISO14001認証取得 12.10 ●NS棟(血漿分画製剤製造棟)竣工 12. ●倫理綱領策定



化血研の森林(平成9年)



ISO14001認証取得(平成13年)



NS棟竣工(平成13年)

医学界の流れ

化血研の開発・組織・経営関連の歴史

化血研の建物・施設・その他の歴史

2002

平成14年

2003

平成15年

2004

平成16年

2005

平成17年

●改正薬事法(一部)及び血液新法施行

●DPC(定額払い方式)が特定機能病院に導入

●高病原性鳥インフルエンザが戦後初めて国内で発生、海外では死者も

●改正薬事法全面施行

6.14 ●オイルパックス5製造承認
7.15 ●千葉県血清研究所の閉鎖に伴い、痘そうワクチン等6製剤を承継

10.11 ●ヒスタグロビンを日本臓器製薬から承継

11.26 ●日本脳炎シリソング製造承認

12.10 ●FDA対応プロジェクト発足

5.1 ●組織改編(品質保証部発足)

6.26 ●国内初の生ウイルスワクチンであるマレック病ウイルスベクターウクチンが薬事審議会で審議・承認。11月から治験が開始された。

7.1 ●献血ベニロン-Iが川崎病2g/Kg単回投与量追加承認

7.27 ●船津昭信第9代所長

9.24 ●オイルパックスSET製造承認

12.13 ●動物用白喉TCワクチン“化血研”製造承認

3.9 ●スイムジエンTGE/PED製造承認

4.30 ●アスレチック棟及びKBS社屋竣工

12.4 ●F棟(インフルエンザワクチン製造棟)竣工

12.26 ●当所の前身である実験医学研究所が解散

4.1 ●関連法人である熊本保健科学大学が開学

12.12 ●阿蘇抗毒素関連施設竣工

3.31 ●LC棟竣工

10.7 ●KR工場竣工

11.5 ●創立60周年記念講演会(山本寛斎)

11.15 ●NR棟(新製剤棟)竣工

11.25 ●「鶏用多種混合オイルアジュバントワクチン開発」の功績により農林水産技術会議会長賞受賞

12.28 ●創立60周年記念式典

そして、次の未来へ。



第3回AIMの風景(平成15年)



阿蘇支所増築(平成15年)



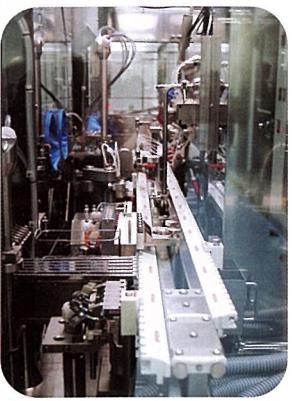
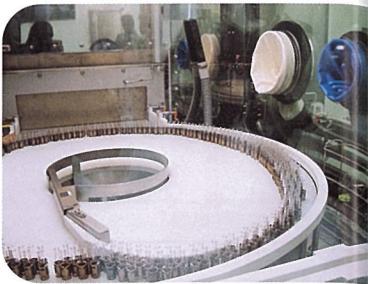
KR工場竣工(平成17年)

おかげさまで60周年。

化血研は、創立の理念に今一度立ち返り、

なお一層、先端技術への挑戦を

続けてまいります。





財団 法人 化学及血清療法研究所

本所	〒860-8568 熊本市大窪一丁目6番1号 TEL: (096) 344-1211 FAX: (096) 345-1345
菊池研究所	〒869-1298 熊本県菊池市旭志川辺1314-1 TEL: (0968) 37-3100 FAX: (0968) 37-3616
阿蘇支所	〒869-2231 熊本県阿蘇市永草2091 TEL: (0967) 35-0830 FAX: (0967) 35-1314
配送センター	〒869-1236 熊本県菊池郡大津町杉水705-1 TEL: (096) 293-1621 FAX: (096) 293-1609
東京事務所	〒108-0071 東京都港区白金台四丁目5番10号 TEL: (03) 3443-0177 FAX: (03) 3449-7605
東京営業所	〒108-0071 東京都港区白金台四丁目5番10号 TEL: (03) 3443-0177 FAX: (03) 3449-7605
大阪営業所	〒541-0059 大阪市中央区博労町一丁目7番16号 TEL: (06) 6261-4890 FAX: (06) 6261-5216
福岡営業所	〒810-0024 福岡市中央区桜坂一丁目15番9号 TEL: (092) 712-0018 FAX: (092) 712-0528
長崎出張所	〒852-8132 長崎市扇町30番10号 TEL: (095) 845-6116 FAX: (095) 848-2997



化血研60年の歩み

●発行日／平成18年2月1日●

●発行／化学及血清療法研究所●

〒860-8568 熊本市大窪一丁目6番1号 TEL: (096) 344-1211 FAX: (096) 345-1345



財團
法人 化學及血清療法研究所